

〈論文〉

# 名詞の多項並列表現

阿久津 智

## 要 旨

日本語（主に書き言葉）における、並列要素が3つ以上（多項）の名詞の並列の表現にどのような形式があるか、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて調べた。その結果、次のようなことがわかった。①読点（コンマを含む）や中点「・」のみで並べる形式が圧倒的に多く使われている。②並列助詞では「や」と「と」が、接続詞では「及び」が多く使われている。③並列助詞と読点や中点とを組み合わせる場合、並列助詞（とくに「や」）は最初の並列要素のみに付くことが多い。④「及び」を用いる場合、「及び」は最後の並列要素（名詞）の直前に現れる。これらには、それぞれ、①並列要素が多いと、並列助詞などは使いにくくなる、②の「及び」は、公用文における並列標識となっている（用例はほとんどが公文書に現れている）、③類似性をもつ要素を「や」で結びつけて先に示し、残りのものをその後列挙するという表現パターンがある、④英語の「A, B(,) and C」にならったもの、といった要因があると思われる。

キーワード：名詞の並列、並列助詞、「と」、「や」、読点

## 1. はじめに

本稿では、名詞の並列（並立）の表現形式について見ていく<sup>(1)</sup>。ここでは、主に、並列される名詞が3つ以上（多項）のものを扱う<sup>(2)</sup>。

3つ以上の名詞の並列の表現には、たとえば、次のような形式がある（下線は筆者。以下同様）。

- (01) ポウルにバクチャー、紫タマネギ、ミニトマト、豚そぼろ、ピーナツ、ミントを入れさっくりあえて器に盛り、ナンプラーをまんべんなくふって、ライムを添えます。（『朝日新聞』2023年5月30日朝刊）
- (02) ふるさと納税の“三種の神器”とも言われる人気の返礼品が、肉、米、カニ。（『週刊朝日』2022年12月30日）
- (03) 山陰での下りの途中停車駅は、生山、米子、安来、松江、玉造温泉、宍道で、上りは生山の代わりに根雨に停車する。（『朝日新聞』2019年11月21日朝刊（鳥取））

これらは、「N, N, N」（Nは名詞を表す）という形式である（以下、必要な場合を除き、読点「、」とコンマ「,」を区別せず、「,」を用いておく）。  
名詞に助詞を付けて並べる形式もある。

- (04) もちろん、卵と牛乳と砂糖を使った手作りプリンではなく、食品メーカー製の、粉末のプリンの素とお湯だけで作るインスタント・プリンのことである。（『朝日新聞』2020年2月29日朝刊）
- (05) 歩行者には危険な箇所<sup>かしよ</sup>があり、全行程の割ほどは電車やバスやクルマを利用した。（『朝日新聞』2000年4月11日朝刊（千葉））
- (06) 解決法は、冷凍保存用バッグと冷蔵庫、電子レンジの自分流「三種の神器」を駆使することだ。（『朝日新聞』2022年6月25日朝刊）
- (07) 小麦粉や牛乳、卵などを入れて作った生地を約4.5キロの型に流し込み、ひっくり返しながらかくこと数分。（『朝日新聞』2022

年12月1日朝刊（神戸）

これらは、それぞれ、(04)が「NとNとN」、(05)が「NやNやN」、(06)が「NとN、N」、(07)が「NやN、N」という形式である。

また、列車のアナウンスなどで、「…、N、NとN」という形式のものが聞かれることがある。

- (08) 中央線、山手線、京浜東北線、東北・高崎・常磐線、総武線、  
京葉線、東北・上越・北陸新幹線と地下鉄線はお乗り換えです。  
(東海道新幹線の東京駅到着前の車内アナウンス)

このように、3つ以上の名詞の並列の表現形式には種々のものが見られるが、このような表現形式を扱った研究は、2.1で触れる柏木（2006）を除いて、ほとんど見られないようである。そこで、本稿では、3つ以上の名詞の並列の表現形式にはどのようなものがあり、どのような表現形式がよく使われているか、その表現形式が使われる背景にはどんなことがあるかなどについて見ていきたい。以下、名詞（句）を並べる（並列関係を表す）表現形式を「名詞の並列表現」と呼び、3つ以上の要素による並列表現を「多項並列表現」と呼ぶ。

以下、まず先行研究をもとに、名詞の並列表現を概観し（2節）、つづいて、コーパスなどを用いて、現代日本語（主に書き言葉）において、実際にどのような多項並列表現が使われているかを見ていく（3節）。

## 2. 名詞の並列表現

本節では、日本語において、名詞の並列表現にはどのようなものがあるか（2.1項）、それらがどのような意味内容をもつか（2.2項）、とくに並列

助詞に関して、どのような点が注目され、研究されてきているか（2.3 項・2.4 項）、などについて、先行研究をもとに見ていく。

## 2.1 名詞の並列表現の形式

まず名詞の並列表現の形式について見ておく（例には、並列要素が3以上のもを挙げる）。

名詞の並列表現には、次のようなものがある（『日本語学大辞典』「並列」中俣尚己執筆）などによる。例は、鈴木 1972: 244-246 のもの）。

・並列助詞（並立助詞）「と」、「や」、「とか」などを使う。

(09) ほくは みかんと りんごと バナナを たべました。

(10) ほくは みかんや りんごや バナナを たべました。

・読点（コンマ）を使う<sup>(3)</sup>。

(11) 朝日, 毎日, 読売は 日本の 三大新聞だ。

・とりたて助詞（副助詞）「も」を使う<sup>(4)</sup>。

(12) ほくは みかんも りんごも バナナも たべました。

このように、名詞の並立表現には、主なものに、「N と N と N」のような助詞を用いる形式と、「N, N, N」のような読点を使う形式とがある。

ほかに、接続詞を使う形式などもある<sup>(5)</sup>（例は、上に合わせた筆者の作例）。

(13) ほくは みかん, りんご, それから バナナを たべました。

(14) ほくは みかん, りんご, そして バナナを たべました。

名詞の並列表現には、以上のようなものがある<sup>(6)</sup>。このうち、多項並列表現には、「と」、「や」、「,」、「・」を使ったものがよく使われるようである。

柏木（2006）によると、「十一課に亘って異なる著者による生教材が収められている」日本語読解教材（『上級日本語コース 読解』明治大学日本語教育研究室）を調べたところ、「並立助詞」、および「同様の機能を果たしているとみられる符号類」については、多い順に、「,」、「や」、「と」、「・」、「とか」が現れたという<sup>(7)</sup>。

## 2.2 名詞の並列表現の意味

次に名詞の並列表現の表す意味について見ていく。

益岡・田窪（1992: 161-163）では、名詞の並列表現を、その意味内容から、以下の4つに分類している（例文は省略する）。

- ・ 総記：該当する要素をすべて述べあげる。「と」、「そして」、「ならびに」、「および」、「かつ」等の表現。
- ・ 例示：該当するものの中で代表的なものを例として述べる。「や」、「やら」、「だの」、「とか」、「なり」等の表現。
- ・ 累加：該当する要素を次々と数え上げていくときに使う。「も」、「に」等の表現。
- ・ 選択：要素の選択をする場合に用いられる。「か」、「または」、「もしくは」、「あるいは」、「ないし（は）」等の表現。

日本語記述文法研究会（2009: 114-120）も、上と同様に、並列助詞を4つの下位類に分けている（例文は省略する）。

- ・ 全部列挙型：全部列挙を表す。「と」
- ・ 一部列挙型：何らかの共通性をもった同じグループに属する要素のうち、そのいくつかを列挙していく。「や」、「やら」、「だの」、「とか」

- ・ 選択列挙型：何らかの共通性をもった同じグループに属する要素をいくつか列挙し、その中のある要素がある事柄に該当することを示す。「か」、「なり」
- ・ 累加列挙型：何らかの共通性をもった同じグループに属する要素を次々に列挙していく。「に」

上の「全部列挙型」は、益岡・田窪（1992）の「総記」に、「一部列挙型」は、益岡・田窪（1992）の「例示」にほぼ相当する。

並列表現の意味の分類としては、このようなものがオーソドックスなもののようなのである。

以上とは別の観点によるものとして、論理学の「連言」と「選言」とを取り入れた意味分類もある。

Huddleston and Pullum (2019: 45) は、「and と or が表す累加と選択の関係は、論理学の連言 (conjunction) と選言 (disjunction) の関係に相当する。」と述べている。「並列される要素」を A・B とすると、「A かつ B」が連言、「A または B」が選言となる。選言は、さらに、「A かつ B」を含む「包含的選言」と、「A かつ B」を含まない「排他的選言」とに分けられる。

この観点から、馮 (2014: 35) は、「A と B」は（語用論的に）主に連言を表し、「A や B」は（語用論的に）主に選言を表すとしている。

また、金澤 (2017: 94) は、「と」は連言に、「か」は排他的選言に対応し、「や」は、「現実確定文」では連言に対応し、「非現実文」では包含的選言または排他的選言に対応するとしている<sup>(8)</sup>。以下の例文は、金澤 (2017) にならった筆者の作例である。

(15) 田中さんは、コーヒーとジュースを飲んだ。(連言)

(16) 田中さんは、コーヒーかジュースを飲んだ。(排他的選言)

- (17) 田中さんは、コーヒーやジュースを飲んだ。(連言)  
 (18) 薬は水やお湯で飲んでください。(包含的選言)  
 (19) 1杯や2杯は飲むかもしれない。(排他的選言)

このほかに、中俣（2015）は、従来の「全部列挙・一部列挙」は語用レベルのもの（キャンセルできる推意）であるとし、「排他的推意」という概念を導入している。これについては、次項で触れる。

以上をもとに、並列助詞の分類についてまとめると、表1のようになる。

表1 並列助詞の分類

主な助詞	例	益岡・田窪 (1992)	日本語記述文法研究会 (2009)	金澤 (2017)*
と	電車とバスを利用する。	総記	全部列挙型	連言
に	電車 <u>に</u> バスを利用する。	累加	累加列挙型	
や	電車やバスを利用した。 電車やバスが利用できる。	例示	一部列挙型	選言
か	電車 <u>か</u> バスを利用する。	選択	選択列挙型	

\*金澤 (2017) は、「に」を扱っていない。

### 2.3 「と」と「や」との使い分け

並立助詞の先行研究で多いのは、「と」と「や」に関するものである。そこで、本項では、「と」と「や」の使い分けをめぐる議論について簡単に触れておく。

「と」と「や」の違いについては、代表的なものとして、先に挙げた、「と」は「全部列挙型」、「や」は「一部列挙型」という見方（日本語記述文法研究会 2009: 114-116）や、「と」は「並べ上げ」を表し、「や」は「例

示」を表す、という見方（市川 1997: 430）などがある。

「や」＝「一部列挙型」という見方に関しては、早くに市川（1991）が「すべて列挙の「や」」があることを指摘しているが、この点に関する議論は多い。

たとえば、安藤（2001: 47, 49）は、「他者のない「や」」を取り上げて、「と」が「挙げられた事物以外のものを読み手にイメージさせない」のに対して、「や」には「同類の集合をイメージさせる機能がある」としている。

また、渡邊（2003: 13）は、「すべて列挙」の「や」も、「一部列挙」の「や」も、「ともに例示機能を有している」としている。

中俣（2015: 136-138）は、「網羅性」（要素を「結びつける力」と「類似性」（要素が「結びつく力」という2つの面から並列助詞の分析を行い、「と」を「要素の類似性を無視して、強力に結びつける」ものの代表とし、「や」を「要素の類似性に従って、緩やかに結びつける」ものの代表としている。

中俣（2015: 32）は、また、「排他的推意」という語用論的な概念によって、「と」を「排他的推意あり」、「や」を「排他的推意なし」に分類し、次のような例を挙げ、語用論的な推意はキャンセル可能だとしている（第1文の推意（20「他にいない」、21「他にもいる」）が第2文で否定される）。

(20) 昨日は佐藤と田中が手伝ってくれた。他にも、山本も手伝ってくれた。

(21) 昨日は佐藤や田中が手伝ってくれた。来てくれたのはその2人だけだった。

以上をもとに、「と」と「や」の違いについてまとめると、以下の表2のようになる。

表2 「と」と「や」の違い

助詞	日本語記述文法研究会 (2009)	市川 (1997)	安藤 (2001)	中俣 (2015)
と	全部列挙型	並べ上げ	それしかイメージさせない	網羅性大 排他的推意あり
や	一部列挙型	例示	同類をイメージさせる	類似性大 排他的推意なし

## 2.4 並列助詞の「と」と格助詞の「と」

本節の最後に、並列助詞（並立助詞）の「と」と格助詞の「と」の扱いについて触れておく。

「並立助詞」は、橋本進吉がはじめて設けた概念（助詞の種類）で、橋本 (1934: 63) は、「と」「や」「やら」「に」「か」「なり」「だの」の類で、「あれとこれと」「酒やび<sup>ママ</sup>ーるや」「酒にビール」の如く、対等の関係に立つ語を接続せしめるものを「並立助詞又は対立助詞とでも名づけたがよからう」とした。

これに対して、並列助詞を設けない考え方もある。たとえば、学校文法では、一般に、時枝誠記の助詞の分類（時枝 2020: 225）をもとに、助詞を、格助詞、接続助詞、副助詞、終助詞の4種に分け、並列の「と」などを格助詞に含めている（野村貴郎 2021: 139）。

並列表現に使われる（並列助詞の）「と」と、述語に対する補語に使われる（格助詞の）「と」とは、文中における機能が異なるが、意味が近くなる場合がある。たとえば、寺村 (1991: 200) は、「光太郎と智恵子が結婚した。」（「と」は「並立助詞」）、「光太郎が智恵子と結婚した。」（「と」は格助詞）という例を挙げて、両者は「客観的に見れば同じ出来事」であるとしている。そのうえで、「N<sub>1</sub>ト N<sub>2</sub>ガ」が「N<sub>1</sub>ガ N<sub>2</sub>ト」に言い換えられるのは、「述語が「Nト」という形の補語を必須補語としている「相

「相互作用」の動詞の場合、および、任意的な、副次的補語として「Nト」をとりうる一般の意志動詞の場合」であると述べている<sup>(9)</sup>。

今日では、記述的な立場の文法論において、格助詞（相当）の「と」と並列助詞（並立助詞）（相当）の「と」を区別することが多いようである（高橋ほか 2005, 日本語記述文法研究会 2009 など）。一方、「名詞（句）＋と」という句としてのまとまりを重視する（形態論的）立場の研究においては、並列表現に使われる「と」と補語に使われる「と」を近いものと見なすことが多いようである（飯島 2003, 近藤 2010, 大山 2022 など）。

以下、本稿では、並列助詞を認める立場に立って、名詞の多項並列表現の使用実態を見ていくが、「と」については、動詞の種類によって、扱いを分けることはしない。また、基本的に列挙された要素がすべてある事柄に該当することを示す形式だけを扱うこととする（「選択列挙型」は扱わない）。

### 3. 名詞の並列表現の使用実態

本節では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス 中納言版』（BCCWJ）を用いて、現代日本語の書き言葉における名詞の多項並立表現の使用実態を概観し、それについて考察を行いたいと思う。

#### 3.1 調査

ここでは、名詞の多項並列表現について、大まかな傾向を見るために、調査対象を絞って、並列要素として3つ以上の名詞を含むものを抽出して、見ていくことにする。

選択列挙の「か」、「なり」、「または」、「もしくは」、「あるいは」、「ないし」は、別の機会に譲り、ここでは扱わない。また、1つの並列表現に異

なる複数の並列助詞を含むものは検索の対象外とする。

調査対象として検索するのは、次のような要素を含むものである。

- ・ 並列助詞の「と」、「や」、「とか」、「やら」、「だの」、「に」、および類似の機能をもつ「も」を含むもの
- ・ 読点（コンマを含む）、中点（・）を含むもの
- ・ 接続詞の「そして」、「それから」、「並びに」、「及び」、「且つ」を含むもの（本節では、BCCWJの「語彙素」の形（表記）で示す）

BCCWJにおける検索対象は、コアデータ（自動解析結果に人手による修正を加えて解析精度を高くしたデータ）に限り、検索キー・条件を、以下のように設定して、短単位検索を行う<sup>(10)</sup>。先に挙げた用例(01)～(03)、(04)の形式を例に示す。

(01)～(03)の形式「N, N, N」は、キーを「品詞の大分類が名詞」、前方共起1を「キーから4語：品詞の大分類が名詞」、前方共起2を「キーから3語：品詞の中分類が補助記号-読点」（「、」、「.」が含まれる）、前方共起3を「キーから2語：品詞の大分類が名詞」、前方共起4を「キーから1語：品詞の中分類が補助記号-読点」とする。

(04)の形式「NとNとN」は、キーを「品詞の大分類が名詞」、前方共起1を「キーから4語：品詞の大分類が名詞」、前方共起2を「キーから3語：語彙素が「と」」、前方共起3を「キーから2語：品詞の大分類が名詞」、前方共起4を「キーから1語：語彙素が「と」」とする。

ほかのものについても同様の方法で検索を行い、現れた結果（表3の「検索結果出現件数」）を1例ずつ確認し、当該の表現に当たらないものを除いて、用例の件数（表3の「該当用例数」）を出した<sup>(11)</sup>。その結果は、以下の表3のとおりである（出典は省略する）。

表3 名詞の多項並列表現 (BCCWJ コアデータ)

検索の形式 (短単位)	該当用例数 ( )内は検索 結果出現件数	用例 下線は「検索の形式」に当たる部分
N と N と N	23 ( 28)	岸和田の <u>水ナス</u> と <u>ミョウガ</u> と <u>ワラビ</u> との煮びたし
N や N や N	19 ( 22)	<u>足</u> や <u>腕</u> や <u>手</u> などを長時間圧迫したら
N とか N とか N	0 ( 0)	—
N やら N やら N	3 ( 3)	<u>肥料</u> やら <u>クワ</u> やら <u>ビニール</u> やらを置いておく
N だの N だの N	0 ( 0)	—
N に N に N	2 ( 44)	<u>野菜</u> に <u>魚</u> に <u>肉</u> , どれをとってもその豊富さと新鮮さが自慢だから,
N も N も N	9 ( 46)	それは他の誰かのせい。 <u>戦争</u> も <u>貧困</u> も <u>犯罪</u> も <u>公害</u> も。
N, N, N	379 (713)	<u>市民</u> , <u>企業</u> , <u>NPO</u> , <u>行政</u> が協働, 連携して
「該当用例数」に含まれないもの: 「N や N, N, N」16件, 「N, N, N 及び N」9件, 「N・N, N, N」6件, 「N, N, N・N」7件, 「N, N, N と N」4件, 「N, N, N 又は N」3件, 「N と N, N, N」2件, 「N に N, N, N」1件, 「N, N, N や N」1件, 「N, N, N に N」1件, 「N, N, N か N」1件, 「N, N, N と N や N」1件, 「N, N, N, そして, N」1件, 「N, N, N 若しくは N」1件, 「N・N 及び N, N, N」1件		
N・N・N	138 (355)	<u>タバコ</u> ・ <u>酒</u> ・ <u>ガソリン</u> にかかる税金を調べ,
「該当用例数」に含まれないもの: 「N・N・N 及び N」3件, 「N・N・N と N」1件, 「N・N・N や N」1件, 「N・N・N, N」1件, 「N・N・N そして N」1件, 「N・N・N ~ N」1件,		
N と N, N	17 ( 31)	<u>白</u> と <u>灰色</u> , <u>茶色</u> を幾何学的に塗り重ね,
「該当用例数」に含まれないもの: 「N と N, N と N」5件, 「N と N, N に N」1件		
N と N・N	6 ( 24)	<u>仕事</u> と <u>家事</u> ・ <u>育児</u> が集中し,
「該当用例数」に含まれないもの: 「N と N・N と N」2件		
N や N, N	94 (108)	<u>スギ</u> や <u>ヒノキ</u> , <u>カラマツ</u> など間伐材を材料として
「該当用例数」に含まれないもの: 「N や N, N や N」8件		
N や N・N	12 ( 25)	<u>けん銃</u> の <u>隠匿</u> や <u>密輸</u> ・ <u>密売</u> の方法をより潜在化・巧妙化させて
N とか N, N	0 ( 0)	—
N とか N・N	0 ( 0)	—
N やら N, N	0 ( 0)	—
N やら N・N	0 ( 0)	—

N だの N, N	0 ( 0)	—
N だの N・N	0 ( 0)	—
N に N, N	2 ( 64)	上タン塩にスンドゥップ, ジョンなどで満腹っす
N に N・N	0 ( 37)	—
N も N, N	0 ( 9)	—
N も N・N	0 ( 2)	—
N, N と N	4 ( 69)	プロデューサー, カメラマン, 通訳と朝日新聞記者を伴って
「該当用例数」に含まれないもの：「N と N, N と N」5 件, 「N や N, N と N」1 件		
N・N と N	3 ( 22)	東アジア全体の平和・安定と繁栄に貢献できるよう,
「N・N と N」の「該当用例数」に含めていないもの：「N と N・N と N」2 件		
N, N や N	7 ( 65)	日本文化に関する講習, 講演や実演などを行う
「該当用例数」に含まれないもの：「N や N, N や N」7 件		
N・N や N	10 ( 18)	はるばる九州・沖縄や北海道から東京まで来たり,
N, N とか N	0 ( 0)	—
N・N とか N	0 ( 0)	—
N, N だの N	0 ( 0)	—
N・N だの N	0 ( 0)	—
N, N やら N	0 ( 0)	—
N・N やら N	0 ( 1)	—
N, N に N	2 (109)	キーホルダー, ぬいぐるみ, T シャツ, クッキーにチョコレート
「該当用例数」に含まれないもの：「N と N, N に N」1 件		
N・N に N	0 ( 32)	—
N, N も N	0 ( 22)	—
N・N も N	0 ( 4)	—
以下, 「それから」, 「及び」, 「並びに」, 「且つ」を用いたものについては, 表にある「そして」と同じ形式で検索して, 件数 (用例) が現れたもののみを挙げる。		
N そして N そして N	0 ( 0)	—
N, そして N, そして N	0 ( 0)	—
N, そして, N, そして, N	0 ( 0)	—

N, NそしてN	1 ( 1)	風合い, 風格そして高級感あふれる質感
N, N及びN	27 ( 35)	化学兵器の開発, 生産, 貯蔵及び使用の禁止
N, N且つN	0 ( 1)	—
N・NそしてN	1 ( 1)	素材の生産・加工・流通・使用そして廃棄に至るまで
N・N及びN	5 ( 5)	小・中・高校・高専及び大学に在籍する
N, N, そしてN	3 ( 3)	監督, コーチ, そしてメンバー全員, ありがとう。
N・N, そしてN	0 ( 0)	—
N・N, 及びN	1 ( 1)	調査・研究, 及び技術開発の方向性について
N, N, そして, N	0 ( 0)	—
N・N, そして, N	0 ( 0)	—
NそしてN, N	0 ( 0)	—
NそしてN・N	1 ( 1)	内外装・建具・造作などの部位そしてドア・窓の部位があり,
Nそして, N, N	0 ( 0)	—
Nそして, N・N	0 ( 0)	—
N, そしてN, N	1 ( 1)	ザルワザという関, そしてドゥエリ, アンダーラートによって
N, 及びN, N	0 ( 2)	—
N, そしてN・N	0 ( 1)	—
N, そして, N, N	0 ( 0)	—
N, そして, N・N	0 ( 0)	—
以下, キーと, 前方共起「キーから10語以内」に, 接続詞(語彙素:「そして」, 「それから」, 「並びに」, 「及び」, 「且つ」)を入れて検索して, 件数(用例)が現れた組み合わせのみを挙げる。ただし, いずれも(単純な)名詞の並列表現には使われていない。		
そして…及び	0 ( 1)	—
及び…及び	0 ( 13)	—
且つ…及び	0 ( 2)	—
及び…且つ	0 ( 1)	—

つづいて, 表3から「該当用例数」の多い形式を挙げる。用例数の多い順に, 1位から12位までを表4に挙げておく。

表4 用例数の多い名詞の多項並列表現（BCCWJ コアデータ）

順位	表現の形式	該当用例数 ( )内は検索結果出現件数
1	N, N, N	379 (713)
2	N・N・N	138 (355)
3	N や N, N	94 (108)
4	N, N 及び N	27 ( 35)
5	N と N と N	23 ( 28)
6	N や N や N	19 ( 22)
7	N と N, N	17 ( 31)
8	N や N・N	12 ( 25)
9	N・N や N	10 ( 18)
10	N, N や N	7 ( 65)
11	N と N・N	6 ( 24)
12	N・N 及び N	5 ( 5)

### 3.2 考察

表3・表4に示した調査結果からは、名詞の多項並列表現に関して、次のようなことがいえる。

- ①読点（コンマを含む）のみを用いるもの（「N, N, N」）、中点「・」のみを用いるもの（「N・N・N」）が、並列助詞や接続詞を含むものに比して、圧倒的に多い。
- ②並列助詞では、「や」と「と」が、接続詞では、「及び」が多く使われている。
- ③並列助詞と読点や中点を組み合わせる場合、並列助詞は最初の並列要素のみに付くことが多い（並列助詞が最後の並列要素の直前に来

ることは少ない)。とくに「や」を用いる形式（「N や N, N」など）がよく使われている。

- ④「及び」を用いる場合、「及び」は、最後の並列要素の直前に置かれる（「N, N 及び N」など）。

以下、それぞれについて、考察していく。

### ① 読点・中点のみを用いるものが圧倒的に多い

読点・中点のみを用いる形式が多く見られることに関しては、要素の数が多くなると、より簡潔な形式が求められ、並列助詞などが使われにくくなるということがあると思われる。

主な形式について、並列表現に使われる並列要素の数を見てみると、「N と N と N」と「N や N や N」の用例には、4要素のものまでしか現れていないのに対して、「N, N, N」と「N・N・N」の用例には、それぞれ、12要素、9要素のものまでが現れている<sup>(12)</sup>。

- (22) 削除した品目（十二品目） 粉乳、特殊鋼熱間鋼管、ブリキ、金地金、銅裸線（電線メーカー向け心線）、タービン、電気がま、固定局通信装置、はん用端末装置、ビデオカメラ、磁気ヘッド、自動車用ガソリン機関（『公正取引委員会年次報告：独占禁止白書』2003）
- (23) 雛人形を商う雛市が十軒店・尾張町・人形町・浅草茅町・池の端仲町・牛込神楽坂上・麴町三丁目・芝神明前・駒込などの各地に立ったが、（長沢利明『江戸東京歳時記』2001）

歴史的に見ると、名詞の並列表現には、古くから（並列助詞なしで）名詞を重ねるものが多かったようである（佐伯 1976: 2-3）。「～と～」, 「～

や～」の形式は、「体言的資格」を明示するのに適当な形式として、本来の「体言的まとまり」を形成していた「～と～と」、「～や～や」の形式から派生したとされる（半藤 2005: 47）。ここから考えると、並列要素が多くなると、ひとまとまり感が出にくくなり、並列助詞による表現効果が薄れ、並列助詞が使われなくなるといふことがあるように思われる。

## ② 「と」、「や」、「及び」が多く見られる

並列助詞を用いる形式において、「や」と「と」を用いるものが多く現れることについては、(2節で見たように)この2つが並立助詞の代表とされることから首肯される。接続詞のなかで「及び」がよく使われることについては、公用文において「及び」が規範的な並列標識となっていることが背景にあると思われる<sup>(13)</sup>。これについては、④で扱う。

## ③ 並列助詞は最初の並列要素のみに付くことが多い

1つの並列表現の中に異なる並列標識（並列助詞、読点・中点、接続詞）を混在させる場合がある。これには、同じ形式を繰り返す単調さを避けるということもあるかもしれないが、標識を変えることによって、㊦並列要素がすべて平面的な関係にあるのではなく、階層的な構造になっていることを示す、㊧並列要素どうしの結びつきやすさ（結びつきにくさ）を示す、ということなどもあるだろう。

㊦の例としては、たとえば、次のようなものが挙げられる。

- (24) NPOやボランティア、行政双方が出し合ったアイデアを、福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」が調整して（『西日本新聞』2003年8月17日朝刊）
- (25) ともに左ひざを痛めているGK川口、戸田と柳沢を試合に出場させないことを明言。（『中日新聞』2002年5月2日朝刊）

(24) は, [[NPO やボランティア], 行政], (25) は, [[GK 川口, 戸田] と柳沢] という階層構造をもつことを示すために, 並列助詞 (「や」, 「か」) と読点 (「,」) とを使い分けていると思われる (24 では並列助詞が 1 段階目 (下の階層) の結びつきに使われ, 25 では読点が 1 段階目 (下の階層) の結びつきに使われている)<sup>(14)</sup>。

①の例としては, たとえば, 次のようなものが挙げられる。

(26) 軍用機や戦車, 銃, 弾丸などの材料として使う目的で, 会社などの鉄, 銅製品の供出を募ったのだ。(村上信夫『帝国ホテル厨房物語』2004)

(27) 家屋や米倉, 壁などに目のモチーフの装飾を描く例などを岩田氏は紹介している。(日高旺『黒潮の文化史』2005)

(26) は, 「軍用機や戦車」が (ともに乗り物で) 結びつきやすい (「銃, 弾丸」はそうではない) ことを, (27) は, 「家屋や米倉」が (ともに建物で) 結びつきやすい (「壁」はそうではない) ことを, 「や」 (と 「,」) で示していると思われる。

このような例は多く見られる (例: 「社会保険や年金, 所得税」, 「意匠や造形, 信仰」, 「便秘や下痢, 胃痛」, 「ウメボシやキムチ, 塩辛」, 「鳥原や天草, 五島」)。これらから, 最初の並列要素にだけ並列助詞を使うのは, 何かしらの類似性を持ち, 結びつきやすい (と書き手が認める) ものを先に示し, そのあとに, 残りのものを列挙していくという表現パターンが一般的なものとしてあるからではないかと思われる。

逆にいうと, 意味・構造上の理由がないかぎり, 並列助詞が最後の並列要素 (名詞) のみに付くことは一般的ではなく, たとえば, 最後の要素の直前にだけ「と」が使われる (最後の要素の 1 つ前の要素にだけ「と」を付ける) と, 「と」が「ひとまとまり」性を示すことから<sup>(15)</sup>, 誤解を招く

ことが起こりうると思われる。

たとえば、「高齢者の趣味で多いのは、演芸、テレビ、旅行、散歩、茶道と華道である。」という文では、「茶道と華道」が合わせて1つの趣味とされているようにとれるが、書き手としては、別々の趣味として列挙した可能性もある。

日本語学習者の誤用にも、これにかかわるものがある。市川（1997: 429）には、「並立助詞「と」」の「誤用例」として、「しゅ味は音楽、映画、読書とバレエです。」「1920年から1980年までの病気の死亡率の表を見ると、脳出血、がん、心臓病と結核の4つの推移が分かる。」などが挙げられ、「と」が「そして」に訂正されている。市川（1997: 431）は、これについて、「最後の語を「と」でつないでいる。「,」を使用するときは…「～, ～, そして～」という形にしたほうがよい。」「並べ上げのとき、「～, ～, ～, と～」と最後に「と」を添える学習者がいるが、日本語ではそのような「と」の使い方はしないことを指導すること。」と述べている。

こういった誤用の要因には、英語や中国語など、外国語の並列表現（多項等位接続）の形式の影響（転移）があると思われる。英語には、「三つ以上の語句を対等に連結する場合」の「注意深く最も穏当な表現法」に「A, B (,) and C」という形式があり（『研究社新英和大辞典 第六版』2002「and」）、中国語には、接続詞の「和」を用いて、「北京、天津、上海和重慶」（北京・天津・上海および重慶）のように表す形式があるが（小学館『中日辞典 第3版』2016「和」）、学習者による「N, N, NとN」という表現は、英語の「and」（副詞）や中国語の「和」（接続詞）などに当てて「と」（助詞）を用いたものであろう。

#### ④ 「及び」は最後の並列要素の直前に置かれる

名詞の並列表現において、「及び」を最後の並列要素（名詞）の前に置

く形式は、法令・公用文等に使われる規範的なものである。

文化審議会（2022: 21）は、「及び・並びに」について、「法令・公用文で、複数の物事を結び付けたり、同時に採り上げたりすることを表す場合に、「と」という意味で用いる。」として、「A, B, C 及び D」の形式を示して、「等しく扱うべき三つ以上の物事を結び付けたり、同時に取り上げたりする。最後のつながり部分にのみ「及び」を用い、他は「,」とする。」としている<sup>(16)</sup>。

また、高橋（2004: 142）は、この形式について、「英語の「a, b, c and d」という表記と同じである。」と述べている。「N, N, N 及び N」は、英語の形式の影響で生まれたものと思われる。

なお、英語の「A, B (,) and C」形式において、最後の並列要素の前に「,」を置くかどうかは任意であるが、切れ目を明確にする場合には、「,」を置くことが多いようである（Huddleston and Pullum 2019: 228, セイン 2011: 194, アルレッドほか 2009: 86）。日本語では、「N, N, 及び N」という、「及び」の直前に「,」を置く形式はあまり使われないうようである（表 3 では 1 例のみ）。

#### 4. おわりに

本稿では、主に書き言葉における、名詞の多項並列表現について見てきた。その特徴をまとめておく。

①読点（コンマを含む）や中点「・」のみで並べる形式が圧倒的に多く使われている。

並列要素が多いと、並列助詞や接続詞は使いにくくなるようである。

②並列助詞では「や」と「と」が、接続詞では「及び」が多く使われ

ている。

「及び」は、並列標識として、公用文等でよく使われる。

- ③並列助詞と読点や中点とを組み合わせて用いる場合、並列助詞（とくに「や」）は最初の並列要素のみに付くことが多い。

類似性をもつ要素を「や」で結びつけて先に示し、残りのものをその後列挙するという表現パターンが見られる。

- ④「及び」を用いる場合、「及び」は最後の並列要素の直前に現れる。これは、英語の「A, B(,) and C」にならったものだと思われる。

#### 《注》

- (1) 「並列」とは、「文法的に同じ資格をもつ要素を並べた要素間の関係。並立、あるいは等位接続とも呼ばれる。」（『日本語学大辞典』2018「並列」中俣尚己執筆）である。本稿では、引用部分などを除き、「並列」を使用する。なお、本稿で見ていくものは、中俣（2015）の「モノの並列」に当たる。中俣（2015: 9）は、これについて、「2つ以上の異なる名詞句が同じ1つの述語と結びつきうる時、さらに共通の格を付与されうる時、その名詞句は並立関係にある。」と述べている。
- (2) 英文法でいう「多項等位接続（multiple coordination）」であるが（Huddleston and Pullum 2019: 4）、本項では、「等位接続」の代わりに、日本語文法の用語である「並列」を使っておく。
- (3) 読点「、」、コンマ「,」のほか、中点「・」も使われる。以下、「読点」には、コンマ（「,」）を含む。これらは書き言葉の表記形式で、「話し言葉ではポーズを置く」（寺村 1991: 203）。なお、このような場合に使われる、助詞の付かない名詞を、鈴木（1972: 221, 245）は、「名詞のはだかの形」、「はだかの名詞」、「はだか格」などと呼び、高橋ほか（2005: 31）は「ハダカ格」と呼んでいる。
- (4) 並列表現に使われる「も」を「並立助詞」とすることもあるようである（寺村 1984: 70）。
- (5) 中俣（2015: 280, 292）の調査の結果によれば、「それから」と「そして」がよく使われるという。
- (6) 生田目（1988: 72-73, 75）は、「～と同じく～も」、「～のみならず～も」、「～を初め」なども、「名詞およびそれに相当する語を並びあげるとき」の

言い方として挙げている。

- (7) 「一まとまりを1例」として数えた結果は、「,」65例,「や」53例,「と」45例,「・」34例,「とか」10例,「零」(括弧入りの語の連続など)10例となっている(柏木2006:101)。
- (8) 「現実確定文」,「非現実文」は,森山(2005:6)の用語で,それぞれ,「現実世界で確定した事実関係を取り上げる文」,「現実世界での事実関係にはコミットしない文」である。
- (9) 相互動作を表す動詞には,「結婚する」,「戦う」,「ぶつかる」などがある。「一般の意志動詞」としては,寺村(1991:200)は,「遊ぶ」,「食べる」,「歌う」を挙げている。なお,同じ「AとBが戦う」にも,相互(AとBが互いに対戦相手になって戦う),共同(AとBが共同して共通の敵と戦う),各々(AとBがそれぞれ別の敵と戦う)といった意味(解釈)があり,文の構造が異なると考えられている(久野1973:69-70,奥津1996,菊地1991,定延1991,阿久津2011など)。
- (10) ここでは,すべて「短単位検索」を行う。これは,「長単位検索」の場合,「・」が1単位内に入ってしまう(たとえば,「タバコ・酒・ガソリン」は,これ全体で1単位になる),「・」による並列表現がほとんど抽出できないからである。「N・N・N」による検索結果は,短単位の355件に対して,長単位では11件である。「短単位検索」の場合,複数の短単位からなる複合名詞が1つの「名詞」として扱われないということがあるが,試みに,「NとNとN」や「NやNやN」を両単位で検索してみたところ,結果にそれほど大きな違いは見られなかったため(「NとNとN」の検索結果は,短単位28件(該当用例数は23件),長単位35件(該当用例数は28件),「NやNやN」の検索結果は,短単位22件(該当用例数は19件),長単位27件(該当用例数は25件)),検索方法を統一するために,「短単位検索」を用いることにした。
- (11) たとえば,並列表現ではないもの(例:「NにNにN」の検索結果における「同年に国連に加盟」)や,並列表現であっても要素どうしが直接には並列の関係にないもの(例:「N, NとN」の検索結果における「食生活,人と自然(とのつながり)」),他の形式に該当するもの(例:「N, N, N」の検索結果における「羊や山羊,ラクダ,シカ」(「NやN, N」の形式))などを除いた。同じ用例が重複して現れる場合は1つに数えた(例:「NやNやN」における「夢や希望や不安や打算」)。「部分並列」(例:「N・N・N」の検索結果における「核・生物・化学兵器」)は数に含めた。「部分並列」とは,「日本市場,米国市場」を意味する「日本,米国市場」のような

ものをいう (白井ほか 1997: 362)。また、現れた用例のうち、並列要素 (の 1つ) が複数短単位の名詞句 (あるいは複合名詞) として扱えるもの (例: 「N や N や N」の検索結果における「アイヌや沖縄や古代の日本」) は、数に含めた。このため、たとえば、「トライアスロン、ラリー、自転車競争に栗祭」(「自転車競争」は 3 短単位) は、「N、N、N」(下線部) の「検索結果出現数」には含まれるが、「N、N に N」の「検索結果出現数」には含まれないというようなことも起こりうる (表 3 の注に載せた数字の間などに不一致が見られるのは、このためである)。

- (12) 各形式における並列要素の数とその用例数を挙げておく。「N と N と N」(23 件): 3 要素 20 件, 4 要素 3 件。「N や N や N」(19 件): 3 要素 18 件, 4 要素 1 件。「N、N、N」(379 件): 3 要素 220 件, 4 要素 89 件, 5 要素 30 件, 6 要素 29 件, 7 要素 7 件, 8 要素 2 件, 10 要素 1 件, 12 要素 1 件。「N・N・N」(138 件): 3 要素 108 件, 4 要素 16 件, 5 要素 10 件, 6 要素 1 件, 7 要素 1 件, 8 要素 1 件, 9 要素 1 件。
- (13) 表 3 に挙げた「N、N 及び N」, 「N・N 及び N」, 「N・N、及び N」の用例 (「該当用例数」・「検索結果出現数」に含まれるもの) は、「N、N 及び N」の 1 例を除き、すべてレジスター「特定目的・白書」に現れたものである。
- (14) 1 節に挙げた (08) 「中央線、山手線、京浜東北線、東北・高崎・常磐線、総武線、京葉線、東北・上越・北陸新幹線と地下鉄線」も、この例に当たると思われる。[[中央線、山手線、京浜東北線、…北陸新幹線]と地下鉄線] という構造で、[[JR 各線]と地下鉄線] となっている。これがよくわかるのは、東海道新幹線の名古屋駅到着前の「東海道線、中央線、関西線と名鉄線、近鉄線、あおなみ線、地下鉄線はお乗り換えです。」というアナウンスで (DenDen-lab、やたてつ Yata-Tetsu 参照)。これは、[[東海道線、中央線、関西線]と[名鉄線、近鉄線、あおなみ線、地下鉄線]] という構造で、[[JR 各線]と[JR 以外の各線]] となっている。
- (15) 「ひとまとまり」性を示す「と」の機能については、2.3 項で中俣 (2015) の「類似性を無視して、強力に結びつける」という見方を紹介したが、早くに国立国語研究所 (1951) が「いくつかの体言を列挙して一団とする。」と述べており、国広 (1967: 48) は、これを「A-B」と表している (これに対して、「や」は「(A) (B) ( ) ( )」と表される)。矢澤 (1989: 269) や吉井 (1989: 48) は、「と」などによる「並立構造」(「並立関係」) を、修飾構造 (連体関係) とは異なる、臨時的「ひとまとまり」(同一性) による構造 (関係) として特徴づけている。

- (16) ほかに、文化審議会(2022: 21)では、「A及びB並びにC(及びD)」という形式を挙げて、「三つ以上の物事を結び付けるなどの際に、結び付きの強さに段階がある場合、1段階目の結び付きには「及び」を、2段階目の結び付きには「並びに」を使う。」としている。この形式は、本稿の調査結果(表3)には現れていない。

#### 参考文献

- 阿久津智(2011)「「AとB」と「AやB」」『立教大学日本語研究』18, 立教大学日本語研究会, 14-21
- G・J・アルレッド, C・T・ブルーソー, W・E・オリウ, 篠田義明監修, 渡辺祥一, 金徳多恵子, 大本道央編訳(2009)『科学・ビジネス英語ハンドブック』研究社(原著(第8版)2006)
- 安藤淑子(2001)「中級レベルの作文に見られる並立助詞「や」の問題点:「と」の用法との比較を通して」『日本語教育』108, 日本語教育学会, 42-50
- 飯島帆奈美(2003)『現代日本語における名詞の並列表現の研究:並列助詞「と」「や」「か」のついた名詞と名詞とのくみあわせ』拓殖大学博士論文
- 市川保子(1991)「並立助詞「と」と「や」に関する一考察」『文芸言語研究 言語篇』20, 筑波大学文芸・言語学系, 61-79
- 市川保子(1997)『日本語誤用例文小辞典』イセブ/凡人社
- 大山祐李(2022)「並列表現「NP1とNP2と」における並列助詞「と」の意味」『東京外国語大学 国際日本学研究』2, 東京外国語大学大学院国際日本学研究院, 225-239
- 奥津敬一郎(1996)「対称関係構造とその転形」『拾遺日本文法論』ひつじ書房(初出1966), 189-208
- 柏木成章(2006)「「全体化」と「類化」:並立助詞論,特に「と」・「や」を中心として」『別科日本語教育:大東文化大学別科論集』8, 大東文化大学別科日本語研修課程, 99-107
- 金澤美里(2017)「並列表現の日英比較」『英語学英米文学論集』奈良女子大学英語英米文学会, 75-95
- 菊地康人(1991)「「XとYは(が)」と「Xが(は)Yと」:用法の整理と言語学的な解析」『東京大学留学生センター紀要』1, 東京大学留学生センター, 15-69
- 国広哲弥(1967)「*and*と「と・に・や・も」」『言語研究』50, 日本言語学会, 34-49
- 久野暉(1973)『日本文法研究』大修館書店

- 国立国語研究所（1951）『現代語の助詞・助動詞：用法と実例』（国立国語研究所報告3）秀英出版
- 近藤研至（2010）「『並立助詞』トと『格助詞』トについて」『上越教育大学国語研究』24, 上越教育大学国語教育学会, 80-68
- 佐伯梅友（1976）「並立関係でまとまる語句」『国語研究』39, 國學院大学, 1-11
- 定延利之（1991）「文の同義性と深層格：名詞句の相互交換を中心に」『近代』71, 神戸大学近代発行会, 69-88
- 白井諭, 十河則子, 木村淳子, 横尾昭男, 内野一, 池原悟（1997）「新聞記事日本文における修飾句と被修飾複合語の関係」『全国大会講演論文集』第55回（人工知能と認知科学）, 情報処理学会, 362-363
- 鈴木重幸（1972）『日本語文法・形態論』むぎ書房
- デイヴィッド・セイン（2011）『英語ライティングルールブック 第2版：正しく伝えるための文法・語法・句読法』DHC
- 高橋昭男（2004）『日本語テクニカルライティング』岩波書店
- 高橋太郎, 金子尚一, 金田章宏, 齋美智子, 鈴木泰, 須田淳一, 松本泰丈（2005）『日本語の文法』ひつじ書房
- 寺村秀夫（1984）「並立的接続とその影の統括命題：モ, シ, シカモの場合」『日本語学』3-8, 明治書院, 247-260
- 寺村秀夫（1991）『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版
- 時枝誠記（2020）『日本文法 口語篇・文語篇』講談社（初刊1950・1954）
- 中俣尚己（2015）『日本語並列表現の体系』ひつじ書房
- 生田日弥寿（1988）「名詞の並列」『国際学友会日本語学校紀要』12, 国際学友会, 69-75
- 日本語学会編（2018）『日本語学大辞典』東京堂出版
- 日本語記述文法研究会編（2009）『現代日本語文法② 第3部 格と構文 第4部 ヴォイス』くろしお出版
- 野村貴郎（2021）「助詞」沖森卓也編『日本語文法百科』朝倉書店, 137-162
- 橋本進吉（1934: 63）『国語法要説』（国語科学講座Ⅵ 国語法）明治書院
- 半藤英明（2005）「並立助詞「と」と「や」の構文上の相違について」『文学・語学』181, 全国大学国語国文学会, 42-51
- 馮元（2014）「日本語の「と」「や」と中国語の“和”の対応関係に関する一考察」『筑波日本語研究』19, 筑波大学人文社会科学部研究科, 28-41
- 文化審議会（2022）「公用文作成の考え方（建議）（付）「公用文作成の考え方（文化審議会建議）」解説」文化審議会

- 益岡隆志, 田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法 改訂版』 くろしお出版
- 森山卓郎 (2005) 「「や」と「と」のちがいをどう説明するか」『京都教育大学国文学会誌』 32, 京都教育大学国文学会編, 1-10
- 矢澤真人 (1989) 「修飾語と並立語」北原保雄編 『講座日本語と日本語教育 4 日本語の文法・文体 (上)』 明治書院
- 吉井健 (1989) 「体言の並立について」『文学史研究』 30, 大阪市立大学国語国文学研究室, 47-56
- 渡邊ゆかり (2003) 「並立助詞「と」と「や」の機能的相違」『広島女学院大学日本文学』 13, 広島女学院大学, 1-15
- Rodney Huddleston, Geoffrey K. Pullum, 畠山雄二編, 岸本秀樹, 有働真理子, 横野美穂, 木戸康人, 前田晃寿訳 (2019) 『接続詞と句読法』 (『英文法大事典』 シリーズ 8) 開拓社 (原著『The Cambridge grammar of the English language』 2002)

#### 使用データベース・コーパス・参考ウェブサイト・YouTube 動画

(いずれも最終閲覧は, 2023 年 6 月)

「朝日新聞クロスリサーチ」朝日新聞社

<https://xsearch.asahi.com/>

「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(中納言 2.7.1) 国立国語研究所

<https://clrd.ninjal.ac.jp/bccwj/>

「DenDen-lab」 「JR 東海 東海道新幹線 (のぞみ号) アナウンスセリフまとめ」

<https://denden-lab.com/tokaido-shinkansen-nozomi-announce/>

「やたてつ Yata-Tetsu」 「新幹線 のぞみ 博多→東京行き 車内放送」

<https://www.youtube.com/watch?v=LbFZoKBYklw>